土質ボーリング柱状図（標準貫入試験）

調　査　名　砂防指定地内河川　鍋屋谷川　通常砂防事業に伴う測量・地質調査・設計業務委託（交付金）　一級河川　江の川水系　鍋屋谷川

事業名 または 工事名

調査目的及び調査対象　砂防 掘削・掘削のり面

ボーリング名	Bor.No.7	**調査位置**	広島県三次市粟屋町			**北緯**	34° 47′ 44.2752″
発注機関	広島県北部建設事務所			**調査期間**	2022年 5月 26日 ～ 2022年 5月 27日	**東経**	132° 49′ 59.6036″
調査業者名		**主任技師**		**現場代理人**		**コア鑑定者**	**ボーリング責任者**
孔口標高	T.P. 206.23m	**角度**	180° 上 90° 下 0° 0°	**方位**	北 0° 270° 西 90° 東 180° 南	**地盤勾配**	水平0° 鉛直 90° 38°
総削孔長	6.00m	**使用機種**	**試錐機**	東邦地下工機　D1-B58	**エンジン**	ヤンマー　NFD-13	**ポンプ** YBM　SP-40B

標尺 (m)	標高 (m)	深度 (m)	現場土質名（模様）	現場土質名	地盤材料の工学的分類	色調	相対密度	相対稠度	地質時代名	記事	孔内水位／測定月日	深度 (m)	N値	打撃ごとの貫入量 (0～100 / 100～200 / 200～300)	50回の貫入量	自沈時の貫入量	試料採取 深度 (m)	試料番号	採取方法	室内試験	原位置試験	削孔月日
1	204.73	1.50		粘土質砂		褐	rd2		新生代第四紀	表土および崩積土に相当。 0.5m付近までは土壌化が進行。 暗色が強く，植物根を混入する。 以深，均質な中間土。 微量の細礫を含むことから堆積層と判断した。		1.15	8	2 / 3 / 3	8/300							
2	204.28	1.95		粘土		黄褐				均質な粘性土で，異物の混入は認めない。岩組織を認めないことから，基盤岩の強風化土ではないと判断した。		1.45										
3	203.28	2.95		強風化ひん岩		褐			中生代白亜紀	岩組織は認めうる。非固結シルト状～固結シルト状へと徐々に固さを増す。固くとも，カッターの刃が容易に突き刺さるほどである。 【DM級・硬質粘性土に相当する】		2.15 2.45	30	7 / 9 / 14	30/300							
4	202.23	4.00		風化流紋岩		淡桃灰				岩種・岩質急変す。10cm以下の短柱状コアを主体に，所々で岩片状をなす。岩質は硬質である。割れ目がやや集中している。 【CL級・軟岩Ⅰに相当する】		3.00		貫入不能	50/0							
5	201.33	4.90		流紋岩		淡桃灰				割れ目間隔は少し疎となり，10cm強の柱状コアが主体となる。割れ目周辺の軟化程度も弱い。 【CM級・軟岩Ⅱに相当する】		4.00 4.00		貫入不能	50/0							
6	200.23	6.00		風化流紋岩		淡桃灰				やや安定を欠いた岩盤となり，岩片状コアを主体に，核岩状に柱状コアをまじえる(5.4～5.85m間)。岩片は硬い。割れ目は弱く酸化している。 【CL級・軟岩Ⅰに相当する】		5.00 5.00		貫入不能	50/0							5/26
												6.00 6.00		貫入不能	50/0							5/27

標準貫入試験　深度－N値図